

国際的ロードツーリズムから見た快適なツーリング環境創出に関する研究

研究方針ー 6 国際的ロードツーリズムから見た快適なツーリング環境創出に関する研究

【要旨】

本研究では、北海道において国際競争力のある「道路を活用した観光」（以下：ロードツーリズム）の実現にあたって、今後の研究の方向性を検討するために既に取り組まれている諸外国の事例等を文献等で調査を行った。

その結果、諸外国では地域の資源や環境に応じた地域独自の街道プログラムを構築し、積極的なプロモーション活動と外国語の情報による旅行計画支援を行っていることがわかった。また、同時に旅行者の来訪後に安全・快適に移動ができるツーリング環境形成に必要な取り組みを行っており、この結果をもとにツーリング環境の先進地の事例を整理・検証し、ルートやエリアごとに国際的な見地から客観的に評価手法や向上方策を検討する必要があることなどがわかった。

キーワード：道路、ツーリング環境、観光、街道、ドライブ、国際的

1. はじめに

近年、国際観光の重要性が増す中、2008年7月に出された「地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画」では、「国際競争力の高い魅力ある観光地づくりに向けた観光の振興」が謳われるなど、外国人観光客への対応が強く求められている。そのような背景の中、「シーニックバイウェイ北海道」をはじめ、「日本風景街道」など、道路資産を有効活用し、地域に新たな活力と富をもたらす“みち”をテーマとした観光・地域振興の取り組みが進められている。

本研究では、既に取り組まれている諸外国における“みち”をテーマとした特徴ある“街道プログラム”やツーリング環境形成に必要な道路整備に関する資料等を収集検討し、北海道における国際的なロードツーリズム推進には今後どのような方策が必要かについて検討を行った。

2. 諸外国における“みち”をテーマとした取り組み事例

日本人等の観光客が多く訪れる先進諸国を対象と

表-1 諸外国の取り組み概要一覧^{1)～12)}

国名	 ドイツ	 フランス	 イギリス	 オーストラリア	 ニュージーランド	 アメリカ	 カナダ
プログラム等の名称	ドイツ観光街道 (休暇街道)	フランスの美しい道	ドライビング・イン・ブリテン	遺産街道とツーリングルート	ニュージーランド8街道	シーニック・バイウェイ・プログラム	観光街道
主体	ドイツ観光局 自治体等	フランス政府観光局 エールフランス	英国政府観光庁	タスマニア州観光・芸術・環境省	政府観光局 陸運輸送庁	連邦道路庁 US DOT	オンタリオ州観光局
開始時期	1927年 (1950年に本格化)	2005年 (2年間のキャンペーン)	2005年	2003年	2000年 (約7年間のキャンペーンで2006年に終了)	1989年(取り組み) 1996年(指定)	1990年代
ルート数	150以上 (地域や自治体レベルで選定するものもあるため正確な数は不明)	10	5	11	8	126 (連邦指定)	18 (オンタリオ州のTourist Routes)
指定の性格	主体が独自に選定	主体が独自に選定	主体が独自に選定	主体が研究をふまえ選定	主体が独自に選定	地元等の取り組みを主体が評価して認定	主体が独自に選定
取り組みの性格	・内発的取り組み ・関連組織による一部日本に向けた強力なプロモーション	・関連組織による日本向けプロモーション	・関連組織による日本向けプロモーション	・内発的取り組み ・関連組織によるプロモーション ・関連組織による研究	・関連組織による日本向けプロモーション	・内発的取り組み ・関連組織によるプロモーション	・関連組織による一部日本に向けた強力なプロモーション
情報発信元	政府観光局	政府観光局	政府観光庁	州観光局	政府観光局	連邦交通省	政府観光局 州観光局
広報・PR手法	・Webサイト ・ガイドブック (8つの観光街道が対象／ロマンチック街道は別途詳細あり)	・Webサイト ・ガイドブック	・Webサイト ・ガイドブック	・Webサイト	・Webサイト	・Webサイト ・ガイドブック	Webサイト
Webサイトの内容	・ドライブルート ・観光案内 ・詳細マップ	・簡易的な観光案内	・簡易的な観光案内	・簡単なドライブルート ・簡単な観光案内	・ドライブルート ・簡単な観光案内	・ドライブルート ・観光案内 ・詳細マップ	・ドライブルート (メープル街道のみ) ・観光案内
ガイドブックの内容	・ドライブルート ・観光案内 ・詳細マップ	・簡易的なドライブルート ・充実した観光案内	・ドライブルート ・観光案内	---	---	・ドライブルート ・観光案内 ・取り組み概要	---
Webの使用言語 (国数カ国)	26カ国に対応 (日本語有り)	37カ国に対応 (日本語有り)	42カ国に対応 (日本語有り)	9カ国に対応 (日本語有り)	9カ国に対応 (日本語有り)	日本語対応無し	10カ国に対応 (日本語有り)

国際的ロードツーリズムから見た快適なツーリング環境創出に関する研究

して、主に日本人を誘致対象とした既存資料・文献調査や在京の各国政府観光局等へのヒアリング調査を行った。表1に7カ国分について取り組み概要を整理した。そのうち、いち早く取組を開始したドイツと、特に日本からの訪問者が多く日本語のWeb ページなどに力を入れているオーストラリアの事例を示す。

2.1 ドイツ観光(休暇)街道・・・ドイツ

【目的】1927年にドイツ・アルペン街道が設けられた後、戦後の経済復興を目的に1950年に約40ルート設定された。

【特徴】街道の指定や認定に規制は設けておらず、「個人の休暇を楽しむための観点」で企画運営され、各地域の住民活動も盛んである(図-1)。

また、広報・PRの効果は大きく、多くの日本人観光客が訪れるようになったと報告されている¹⁾。日本で知名度の高い「ロマンチック街道」は外国人向けのPRのために企画されたものである。

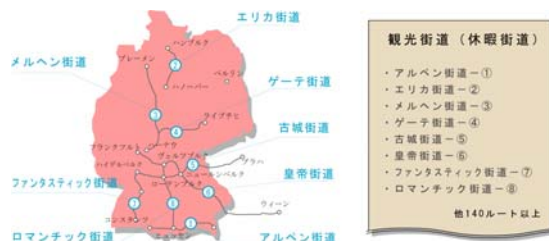


図-1 ドイツの主なルート²⁾

2.2 遺産街道とツーリングルート・・・オーストラリア

【目的】既存の遺産道路を軸として、通過観光の問題解決や地域内の観光移動を活性化させることが目的。

【特徴】観光資源や街の特性からエリア別にSWOT分析・把握を行い、各エリアでのツアールート設定の戦略を構築し、住民との協働によるワークショップを通じ各エリアのアクションプランを策定している。

タスマニア観光局では、遺産街道ならびに遺産が移動とリンクしたルート等、11ルート(図-2)をHPにより日本語などで紹介している。



図-2 オーストラリアの主なルート³⁾

3. 先進地でのツーリング環境の現状

今後北海道におけるロードツーリズム推進のための参考とすることを目的とし、インバウンド観光推進に資する道路施策や事業に関する資料を収集した。そのうち、米国、ニュージーランドおよびオーストラリアにおけるツーリング環境の現状や課題について特徴的な事例を整理した。

3.1 米国におけるツーリング環境の現状と振興策

米国はモータリゼーションが最も進んだ国の一つであるほか、国立公園発祥の国として、自然に親しむアウトドア・レクリエーションも活発である。そのため、国立公園へのアクセスや周遊を中心としたロードツーリズムが盛んな国であり、ルーズベルト大統領が1930年代の世界恐慌に対する経済活性化策として開始した全長750kmにおよぶブルーリッジパークウェイなどの「パークウェイ(道路公園)」の整備があげられる。

また、こうしたロードツーリズム需要への対応として、快適な沿道景観形成にも力を入れている。1997年には、米国における沿道景観形成に取り組んでいる非営利団体「シーニック・アメリカ」と連邦道路庁が協働で「道路景観形成における柔軟な設計マニュアル(Flexibility in Highway Design)」(図-3)を作成、また2002年にはシーニックバイウェイにおける沿道景観改善事例集である「シーニックバイウェイ沿道景観改善ガイドブック(A Design for Road Side Improvement)」(図-4)が、連邦道路庁、連邦森林整備局、連邦自然生物保護局、連邦国立公園局の共同で作成されている。



図-3 道路景観形成における柔軟な設計マニュアル

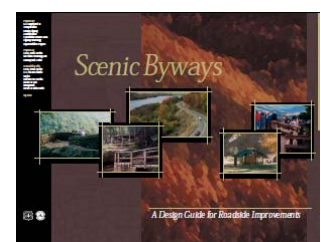


図-4 シーニックバイウェイ沿道景観改善ガイドブック

一方、最近では景観形成だけではなく、地域の多様な環境に配慮した総合的な対策、いわゆる「コンテキスト・センシティブ・ソリューション(CSS)」事業として、行政と地域住民との協働による取組が進められている。AASHTO(米国交通運輸担当者協会)では、2年に1度CSS活動に対して表彰を行っており、さらに

国際的ロードツーリズムから見た快適なツーリング環境創出に関する研究

各州でも CSS 活動等を推進するためのマニュアル等を制作している。

3.2 ニュージーランドのツーリング環境の現状

ニュージーランドは島国で人口も 427 万人と少なく、観光は主に海外からのインバウンド旅行者に負うところが大きく、2007 年のインバウンド旅行者数は 246 万人⁴⁾に達し、総人口の 57%にあたる人が海外から訪れる。また、年間 60 万人の外国人がレンタカーで移動する同国では、陸上交通安全局が大学と共同でこれらに関する調査研究を進めている。この研究¹³⁾から、外国人のレンタカードライブ観光客は、高い教育と所得を有する優良な旅行者で地域振興に貢献するとしている。

また、良好な沿道景観の形成にも力を入れており、植栽や緑化により沿道景観改善を推進していくために、道路管理者や現場担当者向けに作成されたマニュアル「沿道景観(緑化)ガイド(Guidelines for Highway Landscaping)」(図-5)がある。本マニュアルの中では、景観に配慮しつつ走行車両が道路外に逸脱した場合の被害を小さくするように、走行路線にクリアランス(最低 9m)を付加(図-6)し、芝生かもしくは柔らかな樹木を植えるよう示されている。加えて、ニュージーランドにおける一般道路の制限速度は郊外部では概ね 100km/h であるなど、特色あるツーリング環境の整備を行っている。

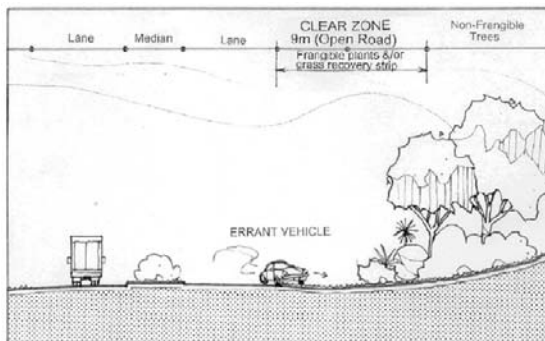


図-5 道路景観形成における柔軟な設計マニュアル

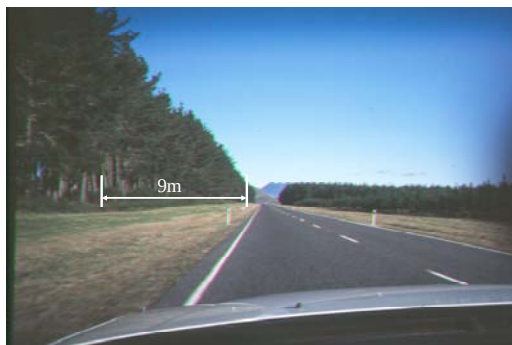


図-6 ニュージーランド郊外部の道路(宮武氏撮影)

4. 外国人観光客のための安全で快適な運転支援の取り組み事例

外国人のドライブ観光増加によって、交通事故の増加が考えられるため、地理や交通ルールに不案内な外国人に安全で快適な運転支援も重要となる。

4.1 ニュージーランドの事例

前述の研究¹³⁾では、外国人ドライバーに対しての安全運転啓発や交通ルールの周知、交通事故対策が重要とし、日本との運転ルールの違いなどを説明したパンフレットをホームページからダウンロードできるなど、外国人に対する情報提供が充実している。

特に道路・交通事情が異なるアジアなどの非英語圏からの観光客に対し、情報を適切に提供していくことが、観光客の安全な移動に繋がると指摘している。特に、計画・準備段階において、国内の交通法やルールなどの適切な内容を効果的な手段で提供していくことを薦めている。

4.2 オーストラリアの事例

ニューサウスウェールズ州では、独自で「道路利用者のハンドブック」(図-7)を作成し、道路に関する実用的な情報、運転ルール、交通違反の罰金等を紹介している。内容は充実したものとなっており 132 頁におよぶ。ハンドブックは Web サイトからダウンロードでき、外国人も旅行計画に活用できるよう 11 カ国語対応となっている。



図-7 「道路利用者のハンドブック」内容例¹⁴⁾

国際的ロードツーリズムから見た快適なツーリング環境創出に関する研究

5. まとめ

5.1 参考となる諸外国の取り組み内容の整理

本稿で紹介した諸外国における“みち”をテーマとした取り組みやツーリング環境を整理すると以下の通りまとめられる。

1) 街道プログラム・システムの構築

- ・国全体のプログラム推進の重要性と共に、地域資源や環境に応じた地域独自のプログラムの構築。

2) プロモーション活動と外国語による旅行計画支援

- ・外国人観光客の特性やニーズの把握とそれに合わせた広報・PR戦略。
- ・道路・交通・観光など、各関係機関が連携した計画準備段階における外国人向けの積極的な情報発信によるドライブ支援。
- ・交通事故の増加が懸念されるため、外国人ドライバーに対する安全運転支援。

3) 旅行スタイルの戦略的提案かつ具体的提案など

- ・ドライブ観光を前提とした、地域固有のテーマ設定や街道エリアでの様々な楽しみ方やアクティビティの充実。
- ・ドライブ観光にあわせた日程（1泊2日～2泊3日）で楽しめるエリアやルートを設定し、複数のルートを組み合わせた旅行計画が出来る工夫や旅の提案。

- 4) これら諸外国の“街道プログラム”はいずれも美しい沿道景観や個性ある固有の文化遺産を多く有しているが、地域の人々の内発的な取り組みや、関連組織による積極的な広報・PR活動、印象的なアクティビティの充実や旅行スタイルの戦略的提案等が行われていることが、現在に繋がっている。
- 北海道においても、これら諸外国の取り組みを参考とすることが必要と考える。

6. 今後の研究にむけて

研究方針研究として、1年間海外の事例・文献収集を中心に行ってきた。この結果を考察すると、研究としては、訪れた外国人旅行者等、利用者による評価がルートの魅力向上、利便性向上に反映されるシステムや手法の提案とその向上方策の提案が重要であると考ええる。

従って、萌芽的研究ではツーリング環境の先進地の事例を系統的に整理・検証することにより、一つの路

線を国際的な見地から客観的に評価手法やルートの魅力向上手法のための研究内容の整理が必要がある。そのためには、諸外国でのルートの評価の仕方や魅力向上の方法を調査や、また、道内を訪れる又は興味がある外国人ドライブ観光者からのニーズやルートの魅力に影響する要素を、Webやヒアリング等を利用して効率的に把握することが必要となる。

参考文献

- 1) 財団法人日本交通公社：「ドイツの観光街道と日本市場」観光文化、1996. 3
- 2) 財団法人北海道地域総合振興機構：「広域・複合連携による観光と交流街道づくり」, 2000
- 3) オーストラリア・タスマニア観光局：
<http://www.discovertasmania.com.au/home/index.cfm>
- 4) ニュージーランド政府観光局：New Zealand Tourism Strategy 2015. <http://www.nztourismstrategy.com/>
- 5) 「フランスの美しい道」：フランス政府観光局
- 6) 「Driving in Britain」：英国政府観光庁発行
- 7) Tour of Qinghai Lake International Road Cycling Race Organizing Committee Office
- 8) タスマニア観光局 HP：<http://www.discovertasmania.com.au/home/index.cfm/>
- 9) <http://www.newzealand.com/travel/ja/trade/training-tools/select-a-module/modules/htsnz---japan/section-three/eight-kaido-heritage-&-pacific.cfm>
- 10) シーニックバイウェイ HP：<http://www.byways.org/>
- 11) カナダ政府観光局「メープル街道」：
<http://www.canada.or.jp/>
- 12) <http://wadaphoto.jp/kikou/can0.htm>
- 13) Land Transport Safety Authority 「Tourist Road Safety in Otago and Southland」 2004：
<http://www.ltsa.govt.nz/research/overseas-tourists/index.html>
- 14) http://www.rta.nsw.gov.au/licensing/downloads/gettittestsdrivieduca_dll.html?plid=3
- 15) 北海道における地域協働型外国人ドライブ観光推進調査報告書、外国人ドライブ観光推進協議会、2007.